

白藍塾オリジナル

2025年度 入試小論文分析&解答のヒント

2025年3月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

● 慶応・看護医療学部

課題文は、介護の現場でしばしば使われる「よいしょ」という言葉について分析した文章。エッセイ調で読みやすく、わかりにくいところはない。誰かと共同作業をする際に、「よいしょ」というかけ声が相手とのタイミングを調整する役割を担っていることを説明している。

設問は2つあり、1つはそれなりの長さだが、どちらも実質的には説明問題。

問題1は、筆者が下線部(1)で「よいしょ問題」と呼ぶものに関心を持った理由が問われている。

理由に該当する内容は、課題文の下線部(1)までの部分に書かれている。「『よいしょ』という言葉の使用頻度が介護現場でとくに高いこと」「『よいしょ』という言葉には明示的な意味がなく、不思議な言葉であること」の2点を挙げてまとめればそれでよい。

問題2は、「よいしょ」というかけ声をどのように使うと「他人とやりとりするための道具」(下線部(2))になるのかを、課題文を踏まえて説明することが求められている。

これは450~500字と字数が多いが、設問の内容から言って説明問題だろう。

下線部(2)の直前の部分で述べられているように、「よいしょ」は単に自分に気合いを入れるためではなく、他の人とのタイミングを調整するための役割を果たしている。つまり、他人との共同作業を前提にしていて、その発声の仕方によってタイミングを測ることで、共同作業の相手とコミュニケーションをとっていると言える。

書き方としては、2部構成のA型を使って、最初にそうしたことをズバリと書く。ただ、それだけでは500字にはならないので、「よいしょ」といった明示的な意味のないかけ声には、そのように発声の仕方やタイミングを通してコミュニケーションを取るといった役割があることを、くわしく説明するとよいだろう。具体例なども交えると字数が埋まるはずだ。

* 執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室(03-3369-1179) <https://hakuranjuku.co.jp>